

愛知県広域緑地計画

中間評価

2026（令和8）年3月

愛知県
都市・交通局 都市基盤部
公園緑地課

1 愛知県広域緑地計画の概要

○愛知県広域緑地計画とは

愛知県では1994年（平成6年）の都市緑地保全法（現在の都市緑地法）の改正を受けて1999年（平成11年）に広域的な観点から「愛知県広域緑地計画」を策定し、2011年（平成23年）の最初の改定を経て、2019年（平成31年）に当時の課題に対応させるべく再度改定を行いました。

都市における緑は、環境保全、防災・減災、生物多様性の確保、景観形成、レクリエーションの場など多くの機能を持っています。また、緑は人々の五感に働きかけ、ストレス軽減や癒やしの効果など心理面に作用する機能があることも知られており、私たちの生活と深く関わり、欠くことの出来ないものです。

現行の愛知県広域緑地計画（以下「本計画」という。）は、このような緑の機能を踏まえ、都市計画区域の緑に関する計画や目標を12項目の指標により示すものです。

○計画の目的

愛知県の都市計画区域の緑化を推進するにあたり、一の市町村の区域を超えた広域的観点から、緑に対する考え方、骨格や拠点となる緑地に関する目標を定め、緑の施策を実施するとともに、市町村ごとに策定される「緑の基本計画」の指針となることを目的とします。

○計画の期間・対象区域

計画の期間：2019年度～2030年度

対象区域：本県の都市計画区域、準都市計画区域

○計画の理念

豊かな暮らしを支える あいちの緑づくり

～緑の質を高め 多様な機能を活用～

2 中間評価の目的

○中間評価の実施

本計画に位置づけられた施策は、Plan（計画）、Do（実施）、Check（点検・評価）、Action（改善・見直し）のPDCAサイクルに基づき進行管理を行うことにしています。

今回、計画における施策の進捗状況を確認した上で、施策が進んでいない場合は、その要因を分析し、必要に応じて計画の見直しや施策の改善を図るため、計画の中間年次となる2024年度時点の直近データを用いて中間評価を実施しました。

○中間評価の方法

本計画においては、施策の評価・改善を適切に図っていくために、2030年度の将来目標として全12項目の指標を設定しています。今回の中間評価では、この指標の2024年度時点における現況値（以下「中間値」という。）を確認することで、計画全般の進捗状況を評価しました。

3 中間評価の結果

計画全体の進捗状況を表-1、将来目標（指標）の進捗状況を表-2に示します。

表-1 計画全体の進捗状況

評価	目標値を上回る	目標値に向けて進捗中	当初値を下回る
項目数	3項目	6項目	3項目

表-2 将来目標（指標）の進捗状況

指標	項目	当初値	将来目標値	中間値	今後の取組方針
①	県営公園における生物多様性の保全再生活動の数	540回/年	600 → 720回/年	713回/年	取り組みを継続
②	生物多様性に関する事項が記載されている緑の基本計画の数	30市町	49市町	37市町	一層進捗に努める
③	緑地の確保や創出面積	43.8ha/年	46ha/年	35.0ha/年	一層進捗に努める
④	広域防災活動拠点となる公園の供用面積	618ha	730ha	688ha	取り組みを継続
⑤	都市緑化普及啓発イベントの数	217回/年	240 → 290回/年	290回/年	取り組みを継続
⑥	住まいの周辺の緑を多いと感じる人の割合	69.1%	75.0%	70.6%	一層進捗に努める
⑦	歩いて行ける公園の人口カバー率	86.2%	90.0%	88.4%	取り組みを継続
⑧	県営公園における利用者数	686万人/年	720 → 890万人/年	847万人/年	取り組みを継続
⑨	公園の管理・運営に参画している協議会等の数	6団体	12団体	9団体	取り組みを継続
⑩	地域の特性を活かし民間活力により魅力を高めた県営公園の施設の数	2施設	7施設	3施設	一層進捗に努める
⑪	県営公園のリピーター割合	79.2%	85.0 → 50.0%	47.8%	目標値を再設定
⑫	県民参加緑づくり事業の参加人数	142,077人(6年間)	284,000 → 258,000人(12年間)	116,218人(6年間)	目標値を再設定

※将来目標値に数値が2つあるものは、それぞれ見直し前と見直し後の目標値

全12項目の評価指標のうち、「目標値を上回る」が3項目、「目標に向けて進捗中」が6項目、「当初値を下回る」が3項目となっています。

このように**12項目のうち9項目が進捗**していることから、**計画全般として概ね順調に進捗**しているものと評価できます。

また、2018年の計画策定時から現時点までの間には、コロナ禍とそれに影響を受けたライフスタイルの大きな変化がありました。こうした状況を踏まえつつ、想定通りに指標が進捗している施策については、これまでの取り組みを継続し、また、進捗が想定より緩やかな指標に関する施策については、より一層の進捗に努めます。一方で、指標が当初値を下回っている施策の一部については、コロナ禍による活動の変化やジブリパーク開園に伴う公園の利用状況の変化などを考慮し、目標値を再設定した上で、引き続き目標達成を目指します。

4 個別指標の中間評価

本計画において設定している 12 項目の指標について、個別の進捗状況を以下に示します。

指標①：県営公園における生物多様性の保全再生活動の数

<計画>

540 回／年 → 【見直し後】 720 回／年
【見直し前】 600
当初値 2017 年度 将来目標 2030 年度

<実績>

713 回／年
中間値 2024 年度

【指標の考え方（当初）】

生物多様性の保全にあたっては、多様な主体との協働が求められます。そのため、市民団体等が主体的に取り組む様々な活動のうち、樹林地整備や竹の除伐、湿地再生など、生物多様性の保全再生に関する活動の回数を指標とします。また、将来目標は、これまでの活動の継続と、油ヶ淵水辺公園での活動を見込み設定します。

【中間評価】

環境保全への機運の高まりや油ヶ淵水辺公園の供用等による活動機会の増加に加え、コロナ禍により活動の形態が少人数多数回に変わったことにより、2024 年度の保全再生活動の数は 713 回／年となっており、当初の**将来目標値 600 回を大きく上回っています**。

今後も積極的な働きかけなどを行い、中間値の活動回数を維持するものとし、**将来目標値を 720 回／年**に見直します。

指標②：生物多様性に関する事項が記載されている緑の基本計画の数

<計画>

30 市町 → 49 市町
当初値 2017 年度 将来目標 2030 年度

<実績>

37 市町
中間値 2024 年度

【指標の考え方（当初）】

緑の基本計画に生物多様性に関する事項を記載することは、生物多様性の保全の実施に直接的な効果があるため、生物多様性に関する事項を緑の基本計画に記載している市町村の数を指標とします。

【中間評価】

近年、生物多様性の重要性の認識が高まっており、2024 年度時点では 37 市町が各々の緑の基本計画において生物多様性に関する記載をしており、**目標値に対する進捗率は 37%**となっています。

今後は市町村への働きかけを強化し、目標達成を目指します。

指標③：緑地の確保や創出面積

<計画>

43.8 ha/年

当初値 2017 年度



46.0 ha/年

将来目標 2030 年度

<実績>

35.0 ha/年

中間値 2019~2022 年度

【指標の考え方（当初）】

水と緑のネットワーク形成や保水機能・遊水機能の確保に向けて、様々な緑地を確保していくことが求められるため、樹林地の公有地化や都市公園の整備、民有地の緑化などにより確保・創出した樹林や芝等の緑の面積を指標とします。

【中間評価】

油ヶ淵水辺公園など都市公園の新規供用のほか、あいち森と緑づくり事業による民有地緑化などにより、2019~2022 年度における緑地創出面積の年平均は、35.0ha となっております。

これは**当初値を下回って**いますが、都市公園の面積拡大は、整備のスケジュールにより年度ごとのばらつきが生じること、また、近年では将来的な人口減少を見据えた既存ストックの活用も重視されているため、当初値と比べ新規供用のペースが緩やかになっていることも要因となっていると考えられます。

一方で、緑地の確保や創出は重要であることに鑑み、一層都市公園の整備や民有地の緑化を推進し、目標達成を目指します。

指標④：広域防災活動拠点となる公園の供用面積

<計画>

618 ha

当初値 2017 年度



730 ha

将来目標 2030 年度

<実績>

688 ha

中間値 2024 年度

【指標の考え方（当初）】

防災に資する緑地として、地域防災計画に広域防災活動拠点として位置づけられている公園の整備を進めるため、供用面積を指標とします。

【中間評価】

広域防災活動拠点となる公園の供用面積は、小幡緑地や豊橋総合スポーツ公園等での新規供用により、2024 年度では 688ha であり、**目標値に対する進捗率は 63%** となっております。

今後も引き続き広域防災活動拠点となる公園の整備を推進し、目標達成を目指します。

指標⑤：都市緑化普及啓発イベントの数

<計画>

217 回/年 → 【見直し後】 290 回/年
【見直し前】 240
当初値 2017 年度 将来目標 2030 年度

<実績>

290 回/年
中間値 2023 年度

【指標の考え方（当初）】

緑の大切さ等の理解の浸透を図るため、都市緑化普及のための啓発イベントの開催数を指標とします。

【中間評価】

環境保全や緑化への機運の高まりにより、2023年度の都市緑化普及啓発イベントの数は290回/年となっており、当初の**将来目標値を大きく上回っています**。

今後も積極的な働きかけなどを行い、これまでの活動の着実な継続を図っていくこととし、**将来目標値を290回/年**に見直します。

指標⑥：住まいの周辺の緑を多いと感じる人の割合

<計画>

69.1 % → 75.0 %
当初値 2017 年度 将来目標 2030 年度

<実績>

70.6 %
中間値 2023 年度

【指標の考え方（当初）】

緑被率は年々減少している中で、暮らしを支える緑として、住まいの周辺の身近な緑地を創出するとともに、今ある緑を保全し質を高めていく取り組みが重要です。そこで、住まいの周辺の緑を多いと感じる人の割合を指標とし、県政世論調査において住まいの周辺の「緑が多い」または「どちらかといえば緑が多い」と答える人の割合の向上を指標とします。

【中間評価】

様々な施策の実施により、身近な緑が多いと感じられる人が増えたものと考えられ、2023年度の調査では住まいの周辺の緑を多いと感じる人の割合は70.6%で、**緩やかに増加**しています。

今後は一層緑の創出や認知の向上に努め、目標達成を目指します。

指標⑦：歩いて行ける公園の人口カバー率

<計画>

86.2 %

当初値 2017 年度



90.0 %

将来目標 2030 年度

<実績>

88.4 %

中間値 2024 年度

【指標の考え方（当初）】

県民にとって身近な公園の整備や集約型都市構造の形成と合わせた公園の再編等により、居住地から歩いていける範囲に公園を配置することが必要であるため、身近な公園の人口カバー率を指標とします。

【中間評価】

県内市町村において、公園が不足する地域や土地区画整理事業地内で街区公園の新規整備が行われる等、身近な公園の確保が進んでいるため、2024 年度の値は 88.4%であり、**着実に増加**しています。

今後も引き続き公園整備を促進し、目標達成を目指します。

指標⑧：県営公園における利用者数

<計画>

686 万人/年

当初値 2017 年度



【見直し後】 890 万人/年

【見直し前】 720

将来目標 2030 年度

<実績>

847 万人/年

中間値 2024 年度

【指標の考え方（当初）】

公園は県民の健康を支える緑であるため、県営公園の利用者数を指標とします。

将来目標は、供用面積が増加予定の小幡緑地、東三河ふるさと公園、油ヶ淵水辺公園の利用者数拡大や、民間活力導入による利用者数の増加、集客性の高い大規模イベントによる利用者数の増加等を見込み設定しました。

【中間評価】

2024 年度の県営公園利用者数は、油ヶ淵水辺公園の開園、小幡緑地における民活施設の導入、愛・地球博記念公園におけるジブリパークの開園などにより 847 万人となり、当初値に比べ大きく増加し、**当初の将来目標を上回っています**。

今後も新規供用、民間活力を活用した施設の設置、大規模イベントの開催等による利用者数の増加が見込まれることから、**将来目標値を 890 万人/年**に見直し、目標達成を目指します。

指標⑨：公園※の管理・運営に参画している協議会等の数

(※政令市・中核市及び県営の公園)

<計画>

6 団体

当初値 2018 年度



12 団体

将来目標 2030 年度

<実績>

9 団体

中間値 2024 年度

【指標の考え方（当初）】

多様な主体が管理運営に関わり、公園の質を高め魅力的な緑づくりを推進するため、また、公園を核として地域の交流の場として活用され、公園での活動を通じて地域コミュニティの醸成が図られるよう、公園の管理・運営に参画している協議会等の数を指標とします。

【中間評価】

2019 年度に油ヶ淵水辺公園で利用促進協議会が発足するなどして、2024 年度時点の県・政令市・中核市の公園の協議会数は 9 団体であり、**目標値に対する進捗率は 50%**となっています。

今後も引き続き多様な主体の参画を促し、目標達成を目指します。

指標⑩：地域の特性を活かし民間活力により魅力を高めた県営公園の施設の数

<計画>

2 施設

当初値 2017 年度



7 施設

将来目標 2030 年度

<実績>

3 施設

中間値 2024 年度

【指標の考え方（当初）】

地域の特性や公園の持つポテンシャルを活かした緑のまちづくりを推進するために、民間活力などを導入した県営公園の施設の数を経験とします。

【中間評価】

2021 年度に小幡緑地において施設がオープンし、2024 年度時点では 3 施設で、**目標値に対する進捗率は 20%**ですが、2026 年度にはあいち健康の森公園において Park-PFI 事業による施設が新規開業予定です。

今後は、一層新たな施設の導入に努め、目標達成を目指します。

指標⑪：県営公園のリピーターの割合

<計画>

79.2 %

当初値 2017 年度



【見直し後】 50.0 %

【見直し前】 85.0

将来目標 2030 年度

<実績>

47.8 %

中間値 2024 年度

【指標の考え方（当初）】

何度も来たいと思える魅力ある公園を目指し、県営公園の来訪頻度を高めることを目指します。そのため、指定管理者が行うアンケート結果におけるリピーターの割合を指標とします。本指標において集計する「リピーター」の定義は、年4回以上来園されている方とします。

【中間評価】

県営公園のリピーター率は、2024年度の調査で47.8%となり**当初値を下回っています**が、指標⑧のとおり来園者数は将来目標を大きく上回っており、新規の来園者が増加している状況です。このことは都市の緑が持つ様々な機能に触れる県民の数が増加していることを示しており、都市緑化の推進において望ましい状況にあります。

なお、当初値は4公園のみの日常的な散策や運動施設の利用者を対象に調査を行っていたため、リピーター率が高くなっていました。しかし、今回の中間値は全11公園で調査を実施し、利用の実態に即した新規来園者の増加も含めた値となっています。

そのため、目標値の再設定を行い、ジブリパーク開園などによる新規来園者の増加も踏まえて、**将来目標値を50%**に見直します。

指標⑫：県民参加緑づくり事業の参加人数

<計画>

142,077 人

【23,680 人/年】

当初 2017 年度



【見直し後】 258,000 人

【21,500 人/年】

【見直し前】 284,000

【23,666 人/年】

将来目標 2030 年度

<実績>

116,218 人

【19,369 人/年】

中間値 2024 年度

【指標の考え方（当初）】

県民参加による植樹、樹林地整備、ビオトープづくりなどの緑の体験学習や緑づくり活動を推進するため、県民参加緑づくり事業の参加人数を指標とします。

【中間評価】

2019年度～2024年度の累計参加人数は、コロナ禍において人数の集まる各種イベントの中止や規模縮小の影響を大きく受け、約116,000人（年平均約19,400人）と**当初値および将来目標の水準を大きく下回って**しまいました。

この状況を踏まえ、今後6年間は当初に設定した23,666人/年の参加を目指すものとし、これまでの実績に今後参加を目指す人数を加えた**258,000人※**を**将来目標値**とします。

5 総括

今回の中間評価では、全12項目の指標のうち9項目が進捗しており、計画全般として概ね順調に進捗していることを確認しました。しかし、このうち6項目はまだ目標値に到達しておらず、3項目は当初値を下回っています。

そこで、計画期間後半においても、本計画に位置付けた各施策を所管する機関との連携を図り、各施策が着実に進捗するよう努めていきます。